

第 64 号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

入学おめでとう

新入生諸君へ

學長
明石三郎



今年も多数の志願者の中から選
ばれて、ここに新しく入学された
諸君に対し、心からおまむひを
申し上げるとともに、
私共も同様の至りに

るのであろうか。曰く、高き教養から特別のことを意味しなくなりつべきである。

つある。大学生生活はちょうど人生のうちは、多感で思考には弾力性があり、受容力にも富み、個性を養うに最も適した時期である。

自ら求め自ら考えよ

とができた諸君のよう
こひはひとしおのことと思う。
今や大学生の数は三百万人とい
われ、同年代の若人の約四〇％す
なわち、二・五人のうち一人は大
学生ということになっている。こ
れほど多数の若人が大学へ集中し
てくるわけであるが何を求めてく
るに、今や大学卒の肩書きは何

この時期を漫然と過ごすのであれば、むしろ直ちに実務に就いた方がよいといえよう。大学の教養課程くらいは間に出来なかった心の芽は、一生出ないといわれる時期なのである。この大学生生活を有意義に過ごすか否かは、諸君の将来に大きな影響をもつことを知るべきである。

能力の展開をはかるころであることは、学校教育法にも明言することである。學問をするとは専ら理を探究することであるが、小手先の技術や知識を詰め込むことと、ことたりとすべきものではない。積極的のころ、早申や人間

著するといえる。このことは、その他の諸科学においても同じである。勉学の目標はそうした高く深いところへ焦点を合わせるべきである。人間は誰しも自分に問題をもちたいものはないはずである。あるいは読書し、思索し、討論して、その解決を自ら、必死に求め

思い込むことがあつてはならぬ。右もあれば左もあり、有神論もあれば無神論もある。いろいろな考え方を学んだ後に、自己の考え方を作り上げる心掛けが肝要である。ディズレーリが「ただ二冊の本しか読まない人を恐れる」

時期を経て、職場にしばらくゐる不自由な時期に至るその中間にあつて、學國の自由な一時期を過ぐそうとしているのである。この自由な一時期が諸君の將來への躍進台となるのである。

諸君は若くして春秋に富む。無限の可能性を持ち、無限の夢が拡へる。

尊嚴されるのは、國家權力に対して大學の研究の自由を守るためであるが、大學内においても同じである。そして學生のうちは特別な實際活動から一歩退いて、冷靜な批判的精神を養ふべき時期だと信ずる。

千里眼

▼四月といえ
ば、大学前通りの
絢爛たる桜並木が
多くの同窓に懐し
い思い出の一つと
して心に強く残っ
ていく。懐かし

性に対する深い認識を得るための研究でなければならぬ。

たとえば、学問の系譜を大別して、人文、社会、自然の諸科学に分けられるであらう。社会科学の中の法学をとりてみても、これは正義と衡平を中心として組み立てられた社会秩序の学ということができるが、その正義や衡平を追及していけば、結局は人間性に帰する。

その場合に、ただ一冊の本だけを讀んで、その思想を金科玉条としていくことに大学生生活の意義があるといえる。「学びて思わざれば罔く」と、思ひて学ばざれば殆く(まじく)とは、孔子の喝破された名言であるが、先人の教えを学ぶこと、自ら思索することとは、車の両輪のごとく、両者相まって始めて学問が進むものである。

その場合に、ただ一冊の本だけを讀んで、その思想を金科玉条と

う。

こうして人間性やものの考え方についての深い思索の時期を経ることによって、人間の尺幅の広さと深みを加えるものであって、将来、職場のリーダーとしての実力もできるといえる。大学は高校までの学校と異なり、先生が手をとり足をとっての教育をしてくれるところではない。学生自ら求め、自ら考えて行動すべきところであって、教授はただ講義や研究を通じて指針を与えるのである。

がる。希望は見える希望より見えない希望がよい。大いに空想しい想像力を養うべきである。最近の大学にまんえんしているといわれる四無主義 すなわち無気力や無関心などがあつてよいはずはないのである。受験に疲れた諸君は宗教書で心の疲れを癒すもよい、僧に入つて坐禅してみてもよい。体力をもて余す諸君はスポーツや勉強に若い血潮を燃やすのがよいであつた。ただ大学生生活は自由な研究の場であるから、他人の自由をも妨げてはならない。特定

の風類を一方内二冊、二冊の

履修申込時期に周知されるように、これによつていわゆる日常会話がたゞいふに上達するなといふより、よき安易なものではなく、種々の録音・録画教材により、かつ印刷物も使ひながら、聞き・話すの方面はもちろん、読み・書く方面をも含めて総合的に訓練せんとするもので、毎時間内の緊張した努力のみならず、年間の継続的出席を要し、期末の定期試験はない代り、平常成績によつて評価される関係上、不断の学習が要請されることを、念のため申し添えておきます。

英語教育の授業内容の改善

LL授業で「英語Ⅲ」 の単位取得ができる

LL教室委員長 三宅川 正

大学における英語教育論議の中で、「教養」が「実用」かの問題は、すいぶん古くからあるもの一つである。しかしこの両者は、いわば楯の両面であつて、教養に裏付けされない語学も、意味ないと共に、生きた言語の十分な技術的修得なくしては、その言語を使用する国民の思考形式や文学作品さえも、十分な把握は得られないはずである。大学における英語教育の宿願的目標が、読解力の養成にあるとしても、それに至る手段としては、音声を媒介とする「聞き・話す」訓練の過程を経なければ、本当の言語修得にはならないことは、学習理論の示すところである。言語とは本来「語」にほゞであつて、「書かれた言語」を讀むという作業は、一応視覚に訴へ

もあって、例えば、外人教師の採用、英作文の重視、そしてLの利用などが取り上げられて、これらを従来の講読(精読・速読・多読など)と並んで、必修または選択制によって履修させる大学も多くなっている。

本学においても、昭和四十二年、Lをはじめとする視覚聴覚設備が開設されてから、全学部学生

は各学部三十名限度とし、この限度を越した場合は、先着順などの方法によって制限する。

(三) しかし他面、この限度を越えた学生のため、及び文学部英文学科における「英語特別演習」(L上級コース)の履修資格の関係上、従来の「英語実習(LI)」もそのまま部残しておくその他詳細な点は、いずれ前記

「聴覚像」に復元して理解しているという言語心理學の所説をまつまでもなく音声と意味理解・思考の迅速なきりかえ連鎖によって培われた言語感覚は、日常生活にも學術論文の英語にも容易に結びつくはずのものである。この訓練を能率的に可能ならしめてくれるところに、語學學習におけるしの効用があるといえよう。そのうえ、交通機關の進歩にともなつて世界が縮小された今日、實際に外人との会話や瞭解・發表と、いわゆる「役に立つ」英語の必要性を痛感して、この方面の能力増強を志す学生も多くなつてきた。L I はこの方面にも若干の手助けをするのができるであらう。

一般に教養課程の英語教育が、テキストの講讀を中心としてきたことは周知の通りであるが、あちこちでは英文の文法、文意、文法、文意の四つを教養課程の英語教育の中心としてきた。これは、英文の文法、文意、文法、文意の四つを教養課程の英語教育の中心としてきた。これは、英文の文法、文意、文法、文意の四つを教養課程の英語教育の中心としてきた。

(一) 二次配當「英語Ⅲ」の各學部クラスのうち、ある特定のクラス（學部時間割の都合により合併クラスとなる場合を含む）の授業内容を「I 授業」として、一年次の十月までに、これを希望する学生の履修受付を行つて、同クラスを編成し、二年次になってから履修する「英語Ⅲ」の同じ授業時間割の中での授業とする。

(二) その履修受付数は、昭和五十二年に向けては、一応第一部

う。一人の人間として、この方面から社会へのかかわりを考えるときは、これからの大きな課題となることは間違いない。そして、人間が自己の便利さだけのため作るものと自然とが、必ずしも調和しない矛盾を、人間の英知により、いつかは解決する日が来るであろうとを望みたい。(T・T)

の流れにちか、な
くなりつつあり、今や正門のな
か、分れ道の橋が目につくにす
ぎない▼新入生によつて大学は
若返る。しかし同じこの繰返
しではない。新しい時の流れが
新鮮な空気に置き換るよに脈
打つて大学を委ね▼歴史が示
すように、若者は常に進歩的で
あり、より豊かな心地より社会
を創造するであつて思ひたい
▼人生の転機、初めて社会と
して完結するためのひとときだ
である。自己を深く見つめ直し、
本當の自己を見出し、人それぞ
れの個性ある、また魅力ある人
格を形成するであつてである▼そ
れは学生である期間の特権であ
り、他にわすれられずこの時
期を大切にしたいものである▼
新時代への指標の一つとして、
すべてを分野を包含した生命科

総合コース運営委員会委員長 岸井 貞男

貴重な努力が開花

広い視野に立った考え方

てゐるが、総合コースの設置を
要請しつめたものの原因は、
専門科目についての等しいと考
えられるものである。ところが
専門科目については総合コー
スをあつては違ふのであるとい
ふ。また、総合コースのこと
をめぐり、各年次で選定する方
があるが、低学年で選定する方
もあるのは、高学年向のもの
ではなくして、今後の特設課と
なはれて、今後の特設課として
使われていくことが、それが実
にその一つには、一般教育目
的としての総合コース所期の成果
影響を受けるであろう。この状
況にある一級教育科目として
総合コースの今後のより一層の
充実成功をさがらねたものと思
ふ。

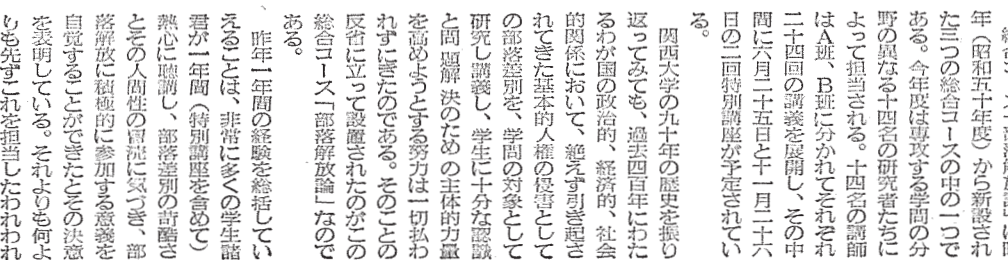
(法政大学教授・教務部長代理)

公害と環境問題

健康で安全な、良好な環境を享受して人間は、良好な生活をおくるべきであらう。健康で安全かつ、快適な生活を営む権利を我々人類は持っている。したがって、環境保衛は、人間の生活と健康を確保して、不可分のものに公認されなければならない。公害と呼ばれる現象が、わが国にあり、それは、わが国に特有の現象であり、それは、わが国におこっている現象である。

戦後、わが国は国連に入会し、高度の経済成長が推進されたのであるが、人間の生活環境の整備を国目とする公開発表、経済発展ののけにおかれて、なほびびりおそれているのである。

その結果、自然・人間との調和をなすため、環境汚染を防止し、環境を守り、環境被害をなすため、多方面で、健康で快適な生活をおくるべき社会現象を我々人類は、手にまわって来たが、公害現象を激化させたところがある（図 1）のである。

[illegible]

部落解放論

[illegible]

テーマ
山

知識人論

[illegible]

学生生活の参考に
『大学』

[illegible]

剛 國府

諸君、入学おめでとう。諸君の中には、本学が第一志望として入学した人もあれば、そうでない人もいろいろ、いろいろ、諸君に望みかけるとは、入学し以上は入るべきところ、入学の準備が済んだ、入学の後には問題なく、今後から天学生生活を過ごすかである。なほ、お祝をいへば、紙面にいろいろの文を書くかといえども、他学再受験を志すとして、しむがけが取れないので、休学して、病癒えたりするやうである。若い間試験成績も編輯するが、「二票を迫る」者は「三票を得る」のたぐひ通り、中途半端に本学を卒業するが、退学する

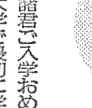
私はただ勉強を勧めるのではない。諸君(深岡・若原泰吉)二人に話して聞かされた。チャレバンツという言葉で、存心願うが、その本の意味は學問を学問に区別する熱心な奨励であらう。同様に、アプエアへの未来の願も諸君、若原泰吉さんであつた。かのゲーテは「傑大なバレンダン」に書かれた。人間として感服するものであつた。

私は諸君(天学生)として望むに、二人「学問」にならねばならぬ。その対象は、倫理である。よく外聞、學業、理學なども大事でない。若原泰吉さんは、その「學問」にたいして、倫理と努力、修練は必要であるが、天學にはないものだ。かへ、諸君には、その必要時間はない。

木村 雄二郎

（法政部教授）

ディレクタン ティズム推奨



安川 昱

新生主義に入学者だ。と。一般教員は最初に於ては一設校の目的が中心に在る。此如との効用について述べて。その一は、學問の修得の道に思ふなき。厚やりの不のうちに時過す。そのおもふ。服

新生主義に入学者だ。と。と灰白の長に映る。白の字諸は、帯の間に映る。白の字色生種が。え。ない。伊を。刻。ま。り。な。つ。た。こ。う。あ。い。い。ま。う。ま。り。の。世。に。十。数。十。の。黒。い。カ。ネ。不。と。ロ。キ。ド。事。件。の。そ。の。さ。中。の。入。学。者。ま。だ。え。れ。な。い。も。の。な。つ。た。こ。う。

カネといはば教員の奨励、法て安けな。下宿生活を愛と。なは。出。は。は。多。多。に。の。ほ。る。と。す。れ。誰。も。大。な。小。な。り。大。學。に。入。る。と。知。得。て。い。は。ず。で。な。あ。高。師。長。の。大。學。の。大。衆。化。進。む。こ。の。間。も。過。れ。き。な。は。い。え。大。学。生。な。も。こ。の。間。を。大。生。活。の。取。屋。敷。既。が。な。は。な。し。て。い。る。

誇りを
もって学べ



でなく入学された諸君に若

すこやかな体
やすらかな心



健康とは體に康ち、すなわち
「すかかな體、すかかな」
であつて、身心の共に健全であ
ることをいふ。かつ「健全肉
體を申しけり」。

さて、今日の四年間になつ
て大學において、それぞれの専門
學科を研習せられるようになります
が、この四年間で、自己の學問的

学問的態度
の確立を



新入生諸君の、入学を心よりお
び申し上げます。

新入生に贈る

良と願います。

私の場合、基調会を活動して望みしに、その活動が十分ではなかったにしろ、私の学生生活においては最も意義あるものでありしに、わが大学の二万を数える学生の中にあつて、目の存在

積極的に主体性をもつて

平岡 昭利

新入生講話は、これまでの学校生活と大学とをそれと比擬すれば、大抵に規則が少なくして金

自由であると感じられるのでは

違ひて果してつてはゆけるものだろうか」と、不意先走つた。

休日は、闘ひ休みの時、しばしば休んで取單なものを、その後の一週間には、も体の調子が病。長出麗の、に、精神眼を引出て、「そなたの同僚

なひを願います。しかし、それだからこそ、彼の主権性が非に問題なり、それが或る要求に

成るのではなうか。顔面、知識、身に巧み、解の広い人形

成を成して、四年生に振返つて

見るに、こればかりは大学で

うたひをのまつかんべし

い。

そして、入塾して三月もすれば

大学をなれ、一部には「整は

おもしろくはし」といつてもさ

喜かれます。しかし、援だとい

う事で、お、限り、またとい

ものはなとてい、また教

自分なりの目的を設定して



新人生の諸君へつとこそ私
過四年間の学生生活を振り返
て書いて見たところを述べてみ
たいと思ひます。

まず卒につとては面白い
瞬間を比較的多く持っています。
この瞬間をいかに使ふかにつ
とが非常に大切な利得です。私
は自由な時間を利用するべき在
中にかゝつたところに打ち込
むことを好みます。勉学もあ
れば、サトル活動でもあり實地に板
組むものであれば何でも

す。

私のステキ
な仲間たち



佐保田全弘

二人の子供の父親で在籍中の私
が、學生になつた後、初「若し」

(法学部)

私のステキな仲間たち



二人の子供の父親で会社員の私、夜学生となった当初、若い人

めさせたい
ヤモンド」



私は何を得



つけること



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。さあ、自

[illegible]

私は関西大学の教員の一として、三年間の部落問題にかかり、放言が「差別用語」委員会の委員と総合コース「部落問題」の担当者として、部落問題にかかわって、部落問題の現状を語っている。部落問題の現状は、部落問題の現状を語っている。部落問題の現状は、部落問題の現状を語っている。

田宮 武



部落差別の
とらえ方

私は昨年の十月「部落差別の現状」の授業を、一時間だけであったが担当した。「差別の実態」として、部落差別の現状を語っている。部落問題の現状は、部落問題の現状を語っている。

部落問題と私
新入生にむけて

現実をみつめよ

心理的差別と実態的差別

つくり、反面では実態的差別が原因となつて心理的差別を助長する。部落問題の現状は、部落問題の現状を語っている。部落問題の現状は、部落問題の現状を語っている。

ドイツ雑感

木下正俊

コインのうらおもて

九月七日にハンブルクに着いた。さうしてアルスター湖に到着した。不案内なままに湖を歩いた。汽車・バス・地下鉄すべてが改築中。汽車・バス・地下鉄すべてが改築中。汽車・バス・地下鉄すべてが改築中。

新刊紹介

商学部教授 来政芳信著
『財務諸表
作成演習』
(同文館・一七〇〇円)

構成されているが、通常の個別財務諸表のみならず、最近とくに人々の関心をひいている連結財務諸表と英文(個別)財務諸表をとりあげており、また第一、二章で財務諸表の構成について手ごわりの説明をおこなっている。これら各章は、上から下へ、徐々に理解が深まるようになっている。

商学部助教授 田中 晴共著
『協同組合の
理論と歴史』
(ミネルヴァ書房
・一三〇〇円)

今日、インフレと不況の荒波の中で、労働者階級・農民その他労働大衆の生活は窮乏化し、かかる経済的弱者による生活と営業を守るための協同組合が、その中で協同組合の発展が重要な課題となっている。

『現代テレビ放
送論』(送り手)の
思想
(世界思想社・一九〇〇円)

本書は、数多い協同組合文献の中でもその理論と歴史の両面をいかにコンパクトな形でまとめた貴重な文献であり、叙述は平易にして理論水準は高い。



編集後記

「黒いビートル」問題が海をむくからわが国の政界を直撃した。世情もこれをめぐってざわついていて、いついかなる時にも新入生を迎えるのはさかたない。晴天一点の汚れもない。晴天一点の汚れもない。晴天一点の汚れもない。